

政策対話（農政部）の概要

1 テーマ

スマート農業の導入加速化について

2 実施概要

(1) 日時

令和元年9月11日（水）14時～17時

(2) 場所

県農業試験場 農業技術館講堂

(3) 参加者

13名（農業者、農業関係団体・中小企業支援団体関係者、市町村農業担当職員 等）

県側：農政部長、農業政策課長、農業技術課長、園芸畜産課長、

先端技術担当部長、産業労働部担当者 等

※ 県民との対話に先立ち、スマート農業技術の体験・展示会を実施

3 寄せられたご意見

区分	ご意見
スマート農業体験等の感想	<ul style="list-style-type: none">○ ほ場のモニタリングシステムは導入しやすく便利であり、管理をデータで行えるため、GAPの取得等に関しても経験や勘に頼らずにできる等のメリットがある一方、通信コストや停電時の対応などが課題。○ 水田センサーは、遠隔地の管理には効果的だが、自分で水を見ないと気が済まない高齢者等がおり、そういった方々への浸透は難しい。また、時間的な制約のある兼業農家向きのツールではないか。○ アシストスーツは、単一の作業でなく一連の作業の流れに対応できる工夫が必要。○ 水田畦畔除草機は夏場の農作業安全の観点などから重要だと思うが、コストや取り回しなどが課題。
スマート農業技術が導入可能な分野	<ul style="list-style-type: none">○ 中山間地域の樹園地における防除作業は、農業従事者が高齢化して危険なため、無人化又は遠隔操作ができるものを開発してほしい。○ 温暖化等により栽培環境が変化しており、新たな病害虫の発生が懸念されるため、予察できるシステムが開発されるとよいのではないか。○ 水田センサーのほか、カメラ等の搭載により生育管理ができればよいのではないか。○ 水田における生育状況の把握はドローンの活用により可能だが、雑草の発見にも活用できればよい。○ 現在スマート農業の実証試験に取り組んでいるが、現在使用しているスマート農業機械は、「これでなくてはならない」という必要性の高いものは多くないが、従来の3Kと呼ばれる農業のイメージを払拭し、若い人たちが農業に参入してもらえるようなになればと思って取り組んでいる。

スマート農業導入加速化において必要なことは？

- 導入のメリットをうまく説明することができる必要がある。
- スマート農業機械の導入に関してはコストが大きな課題。レンタルの制度などがあってもよいのではないか。
- スマート農業に興味がある方はよいが、そうでない人に対してどのように対応していくかが重要ではないか。
- スマート農業にアクセスするスマートフォンやタブレット等のデバイスが高齢者には取りつきにくい。I o T時代でテレビもインターネットに接続できる時代なので、高齢者がアクセスしやすいデバイスの選択が重要。
- センサーなどは様々な企業が開発しているが、規格の統一が必要ではないか。
- 現在のスマート農業機械の価格は生産コストから決定されていると思うが、この考え方では、生産物の販売価格を自分で決定できない農業の収益性をみれば導入は困難。メーカーも農家の収益性を踏まえた価格帯での販売をしてもらいたい。
- 農業者がスマート農業にアプローチするのは難しい部分があるので、行政でも取組を率先して進めていかないと一歩が踏み出せないのではないか。また、普及する側（県農業改良普及センターやJAの指導員）の理解促進と情報共有といったことに連携して取り組む必要がある。
- オピニオンリーダー等の人材育成が必要。
- 導入の成功例・失敗例の情報共有と蓄積が必要。